

人間国宝 一龍斎貞水 × 国重要文化財 旧燈明寺本堂

月光怪談

○○で怪談！シリーズ第3弾
この日満月、怖くて美しい夜になる。
耳に残つた人の間に振り返り、振り返り。

2010.09.23(祝) 18:00開場
18:30開演

[出 演] 人間国宝・講談師 一龍斎貞水
[会 場] 横浜 三溪園 旧燈明寺本堂(国重要文化財)
[公演料金] ¥5,000 ※別途、三溪園の入場料がかかります。
[入場料] 大人¥500／シニア¥300／小人¥200／免除対象あり
[定 員] 全自由席100 (畳席90 椅子席10)
[ご予約] 領域探査デザイン
03-6662-5350 shindo@ryooikitansa.com

開催協力／株式会社 影向舎
<http://www.yougou.co.jp/> + 主催／領域探査デザイン
<http://www.ryooikitansa.com/>

領域探査
デザイン 中古スケルトン賃貸普及プロジェクト[®]

運営協力／月光怪談実行委員会
映像:CAT影山 記録映像:石山理恵子 Gデザイン:今林せいじ
WEB広報:新川尊子 企画:新藤典子



Tel 045-621-0634
JR根岸駅 1番乗り場(市バス58・99・101系統)10分 本牧下車・徒歩7分
横浜駅東口 2番乗り場(市バス8・148系統)約35分 本牧三溪園前下車・徒歩約5分

同時開催

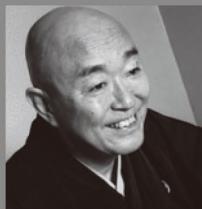
三溪園 觀月会

中秋の名月を楽しむための夜間公開。広大な敷地に点在する三重塔など古建築のライトアップのほか、元紀州徳川家の別荘建築・臨春閣を舞台にした邦楽演奏などの催しがあります。こわい怪談の後は、敷地内の散策をお楽しみください。茶処・食事処あり。

[開催日時] 2010.09.22(水)-26(日) 21:00まで開園 [詳 細] 三溪園HP www.sankeien.or.jp

歴史的建造物×怪談

○○で怪談！



人間国宝
一龍斎貞水

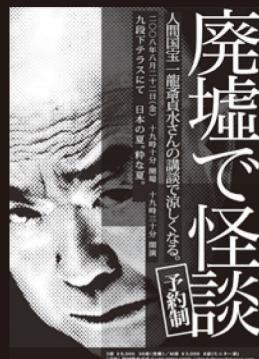
重要無形文化財保持者

「講談は守るべきものと開拓すべきものがある」を座右の銘とする大看板真打。その活動は多岐にわたり、自ら主催する講談「湯島道場」や寄席の定期公演活動を精力的に主催のホール寄席、ディナーショウ、海外公演、学校公演など幅広い公演活動を精力的に主催。講談師、夏はお化け、冬は義士で飯を食い」と言われるほど怪談漸と忠臣蔵は大切な読み物（演目）、講談師として初の全編読みきり『四谷怪談』全5巻、『忠臣蔵・本伝』全15巻のCD化を実現。また子供向けの『一龍斎貞水の歴史講談』を著作。TV、ラジオなどに多く出演。幅広い層に講談の魅力を発信し続けている。特に怪談に関しては特殊演出効果を駆使した「立体怪談」と、その取り組みが関心を呼び、「怪談の貞水」と言われる。

人間国宝 一龍斎貞水 ○○で怪談！ シリーズ

人間国宝の舞台の裏方をデザイナーやプランナー有志が支える独自スタイル。2008年より夏に1度、場所と設定を変えて展開中。企画運営／領域探査デザイン

第1弾



「廃墟で怪談」 #1

古ビル 九段下テラス

<http://www.ryooikitansa.com/pdf/ev080822.pdf>

再開発地帯真っ只中、現在も廃墟化進行中。神田神保町の企画者自身がプロデュースした築80余年の廃墟系歴史的建造物「九段下ビル」の一角で行い、貧否両論、物議を醸す。怪談にふさわしいビジュアルの提示にとどまらず、通行規制や断水、重量制限の中でホンモノの地震に遭遇する出来事など、取壊間近のビルの終局をさりげなく出し、問題提起となつた。

第2弾



「廃墟で怪談」 #2

古寺 倭島説教所

http://www.ryooikitansa.com/tsukuda/t_event.html

高層ビルと下町風情の狭間、月島で、築75年を経た浄土真宗の寺をご本尊ごと1棟借り受け、障子や寺に伝わる太鼓を活用した演出で好評を得る。政権交代をかけた衆議院選が怪談か。「投票してから来てください」と呼びかけた、世の中が騒々しかった夏最後の日。地元もんじゃストリートへの誘導を試みた。

第3弾



「月光怪談。」 #3

重文 旧燈明寺本堂

京都燈明寺は室町時代に建立された密教寺院。その昔、宗派を超えて廢絶や復興を重ねた。本堂は重要文化財指定後の1947年に台風で大破して荒廃、解体から30年格納されていた部材を三溪園が移築再生した。さて今回は、満月に照らされた三溪園の夜、よみがえった燈明寺本堂を人間国宝の怪談の舞台として一棟丸ごと演出する。少し冷える小話を。燈明寺の旧仏は、寺跡の残る遠く離れた現地の収蔵庫に今も眠るという。

三溪園

明治期に生糸貿易で成功して財を成した原三溪は、当時の画人達のパトロンであり、美術品のコレクターでもあった。彼は明治維新の廢仏毀釈で廃寺及び自國の美術品が海外に流出することを憂え、自邸の日本庭園に歴史的価値がある古建築を次々と移築し文化サロンとして開放した。こうした経緯により三溪園は明治39年(1906年)に一般公開された。広大な敷地には、景観を生かして重要文化財10棟を含む17棟の歴史的建造物が移築保存されている。第二次大戦後、財団に管理を移して修復、現在に至る。



怪談会場：旧燈明寺本堂

